



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 30 年春季版

(平成 30 年 5 月 15 日)

※選手の所属・学年などは
いずれも大会当時です。

選抜卓球 中学高校そろって優勝、4 年連続!!

附属中学校卓球部は第 19 回全国中学選抜大会の決勝（3 月 25 日・島津アリーナ京都）で明德義塾（高知）を 3 - 0 で破り、大会 6 連覇を達成しました。名電高校卓球部も第 45 回全国高校選抜大会の決勝（同 28 日・福井県営体育館）で野田学園（山口）を 3 - 1 で下し、大会 4 連覇を成し遂げました。中高そろっての選抜優勝は、これで 4 年連続となります。

学園は 5 月 7 日、両卓球部に対して学園表彰を行い、快挙をお祝いしました。学校法人名古屋電気学園愛名会からもお祝いが贈られました。



6 連覇を達成した附属中卓球部



高校卓球部は 4 年連続 6 回目の優勝

中学は 6 連覇、全国大会 11 連勝

今大会の中学卓球部は、どこからでも点の取れる戦力が整い、大会前の調整も順調に運びました。それまでの試合でも成長が見られるパフォーマンスがあったため、指導者・選手ともに楽しみに大会を迎えたといいます。

結果を見れば、全試合 3 - 0 の無失点完全優勝。ただ、真田浩二監督が大会前に「全国の強豪校に強い選手がおり、前半のシングルスで 1 点失うことも考えられ、3 番のダブルス種目は何が起きるか分からない」と予想した通り、いくつも山場を迎えました。

中間東（福岡）と対戦した準決勝は、1 番主将の篠塚大登選手（2 年）がエース対決となった試合を終盤果敢に攻め、最終セットまでもつれる接戦をものにしました。3 番ダブルスも 2 - 2 の接戦となりましたが、最終セットはメンタル状態も落ち着きを取り戻し、結果的にチームのストレート勝ちとなりました。2 つの接戦を落としていたら、後半プレッシャーのかかった試合を乗り越えないといけない状況が考えられました。

決勝は、1 番から 3 番までの選手が思い切りのよいプレーで勝利。これで全中と合わせると 11 大会連続の全国優勝となりました。真田監督は「選手全員が大会前から、そして当日朝の練習も試合中も、終始良い表情でプレーしていたことから、卓球を楽しんでいたように感じます。このようなメンタル状態になるのは難しいですが、良いパフォーマンスを出すには、とても重要なことです。担任の先生や中学サッカー部も応援に来てくださり、たくさんの方々の励ましをいただきました」と感謝をこめて振り返りました。



エースの重責を果たした篠塚大登主将
(写真はいずれもニッタクニュース提供)

大学レーシングカート部を学園表彰



後藤泰之理事長を囲んで、レーシングカート部員ら

それぞれ優勝を飾り、全クラス制覇により6年ぶり4回目となる総合優勝を決めました。学園表彰では、後藤泰之理事長が山田章顧問、水野尚紀主将と、岡崎、夏目、角谷各選手に表彰状などを手渡しました。クラブ活動後援会からもお祝いが贈られました。

後藤理事長から「連覇を続けてほしい」と激励されたレーシングカート部は、山田顧問と水野主将が「これに満足せず次の結果につなげたい」と今後の活躍を誓いました。

第22回全国学生カート選手権（昨年8月15～16日・豊田市石野サーキット）で総合優勝を成し遂げた大学レーシングカート部に対する学園表彰が、2月20日に八草キャンパス本部棟で行われました。

同選手権では、岡崎幹選手（機械学科2年）がYAMAHA-TIAクラス、夏目南斗選手（同）がFDオープンクラス、角谷昌紀選手（同）がYAMAHA-SSクラスでそ



山田章顧問



水野尚紀主将

カート部選手たちは国際大会などでも大活躍

ROTAX MAX Challenge シリーズ Grand Final

水野皓稀選手（機械学科1年）は、昨年11月にポルトガルで開催されたレーシングカートの世界大会「ROTAX MAX Challenge シリーズ Grand Final 第18回大会」に出場し、MAXクラスで7位に入る快挙を達成しました。出場できるのは国と地域の



シリーズでチャンピオン（及びそれに匹敵する順位）になった招待選手のみ。水野選手はROTAX MAX Challenge 大会で日本ランキング1位となったことを

受けて Grand Final へ招待されました。

大会当日は1次予選を1位ゴール、その後2次、3次予選で順位を落としましたが準決勝で持ち直し、決意をあらたに挑んだ決勝で並みいる強豪のなか好成績を収めました。

豊田市も快挙を表彰、選手は太田市長を表敬訪問

快挙を受けて岡崎、夏目、角谷、水野の4選手は3月3日に行われた豊田市制67周年記念式典で表彰を受けました。その前日の3月2日、4選手は太田稔彦豊田市長を表敬訪問。市長から「豊田市はくるまのまち。モータースポーツの観点でも盛り上げたいので、ぜひ皆さんの活躍について聞かせていただきたい」と話があり、レースの動画などを交えて和やかに歓談しました。



動画でレースの説明を受ける太田稔彦市長

X30 チャレンジジャパンカップ

角谷昌紀選手は昨年8月に行われたカート選手権「IAME X30 チャレンジジャパンカップ」のセニアクラス（15歳以上）に出場、20台中2位で準優勝となりました。「X30 チャレンジシリーズ」はフランス・ルマンで年1度行われる世界大会に向けた日本代表選考レースに位置づけられ、国内各サーキットで開催される各大会優勝者と年間ポイント1位の選手に出場権が付与されます。昨年、新たな代表選考レースとして「ジャパンカップ」が設定されました。

角谷選手2014年にX30日本一決定戦で優勝、日本代表としてフランスの世界大会に出場しています。現在はフォーミュラ4へのステップアップを目標に練習を積み、今後のさらなる活躍が期待されています。

86 レース

角谷選手は、3月31日～4月1日に鈴鹿サーキットで開催された86レース（正式名称「TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race」）に参戦の機会を得、最も活躍した新人ドライバーに贈られるルーキー賞を獲得しました。角谷選手は79台参加のクラブマンシリーズ第1戦に出場し、初レースながらAグループ18位の好成績を収めました。



春高バレーで前年覇者を撃破！



前年覇者の駿台学園を下した
春高バレー 2 回戦

新春、東京体育館で開催の全日本高校選手権大会（春高バレー）に、高校バレーボール部が 3 年ぶりに出場しました。前回出場時のベスト 4 を上回る成績は残せなかったものの、2 回戦で前年覇者の駿台学園（東京）を 2-1 で撃破し、全国的な注目を集めました。

平均身長 180 ㌢と前回出場時より高さが低い選手たちですが、的を絞らせない多彩な攻撃により、出場校中トップの平均身長 188.8 ㌢を誇る駿台学園との体格差をはね返しました。崇徳（広島）と対戦した 3 回戦では第 1 セットを先取しましたが、残念ながら逆転負けを喫しました。

大会を振り返り、北川祐介監督は「川内商工（鹿児島）と対戦した 1 回戦をセットカウント 2-0 で勝ち、2 回戦も今大会優勝候補の呼び声が高かった駿台学園を相手に、3 年生を中心に持てる力を発揮し 2-1 で勝利しました。3 回戦では、崇徳の堅い守備を破ることができず、1-2 で惜敗し、ベスト 16 で大会を終えました。今回の春高バレー出場に際しては、高校・中学の教職員・生徒をはじめ、多くの学園関係者の方々に応援をいただきました。バレー王国といわれる愛知県で予選を勝ち上がることは簡単ではありませんが、今後も全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励んでいきたいと思っております」と話しています。

中部日本学生スキー選手権で総合優勝

2 月 16～18 日、長野県白馬村の白馬岩岳スノーフィールドで開催された第 63 回中部日本学生スキー選手権で、大学競技スキー部が 4 年ぶり 14 回目の男子総合優勝を果たしました。中部地区から 12 大学の約 80 人が参加。本学は今回は少数（アルペン 3 人、クロスカントリー 2 人）での参戦となりましたが、溝口雄平選手（経営学科 2 年）が大回転・回転の 2 種目で優勝したのをはじめ、参加選手が全員ポイントを獲得し、総合優勝することができました。大会初日は低気圧の影響で猛吹雪となり、難しい状況でのレースとなりましたが、粘り強く滑り抜き、結果を出しました。



総合優勝を果たした競技スキー部

■主な成績

【団体】男子総合優勝（4 年振り 14 回目）

【個人】●スーパー大回転：準優勝 瀧川幸広（経営学科 3 年）3 位 溝口雄平（同 2 年）

●大回転：優勝 溝口雄平、4 位 熊谷和真（同 4 年）

●回転：優勝 溝口雄平、3 位 瀧川幸広

●リレー：4 位 山本翔也（機械学科 4 年）、瀧川幸広、溝口雄平、吉永燎人（機械学科 1 年）



圧巻の演奏を披露した定期演奏会

4 部構成。部員たちが台本からつくり上げたミュージカルステージ「オズの魔法使い」など多彩な内容の第 4 部では、会場と一体になった合唱も織り込み、活動のモットーである「絆」の強さをアピールしました。

全日本アンサンブルコンテストでは金賞に輝く

同部は 3 月 21 日、神奈川県横須賀市で開かれた全日本アンサンブルコンテストに東海代表として出場し、見事に金賞に輝きました。出場は 2 年ぶりで、2 年生の 8 人がガブリエリ作曲の「第 12 旋法によるカンツォネ」を演奏しました。

高校吹奏楽部第 53 回定期演奏会

学園が主催する名電高校吹奏楽部の定期演奏会が 1 月 9 日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜 2 部にわたり開かれました。53 回目となった今年は、全国最多 40 回の出場を果たした 2017 年度全日本吹奏楽コンクールの演奏曲目「宇宙の音楽」などを第 1 部で披露し、感動を新たにしました。

プログラムは伊藤宏樹教諭の指揮による

◎サマーコンサート開催日程
7 月 16 日午後 4 時半、日進市民会館
7 月 19 日午後 6 時半、センチュリーホール

ロケット研究会が種子島ロケットコンテスト大賞を受賞！



大学のロケット研究会（顧問・今野彰機械学科教授）が、3月8～10日に鹿児島県種子島宇宙センターで開催された第14回種子島ロケットコンテスト大会のロケット部門（高度）で昨年に続き優勝を収めました。さらに他部門でも優勝、準優勝と好成績を収め、大会総合優勝に値するロケットコンテスト大賞を受賞しました。

大会では全国の大学生・高専生・企業が、モデルロケット（火薬を動力とした小型ロケット）の打ち上げを行う「ロケット部門」と Cansat（模擬人工衛星）を動作させる「Cansat 部門」の2部門で、自作のロケットの打ち上げ技術を競います。1日目に各チームによるプレゼン発表、2日目にワークショップや種子島宇宙センターの施設見学、3日目にロケットの打ち上げが行われました。

同研究会は2年生2人、1年生12人の計14人がロケット部門全4種目にエントリーし、参加団体の中で唯一、すべての種目で書類審査を通過し本選に出場しました。各部門の競技で何を攻略すべきかを考え、戦略構想をしっかりと立てたうえで機体のデザイン・設計を行い、試行錯誤を重ねた結果、圧倒的な技術力で好成績を収めることができました。リーダーの三木一慶さん（機械学科2年）は「いつか“ロケットの愛工大”と呼ばれる日を目指してこれからも挑戦を続けます」と抱負を話しました。

沖縄海洋ロボットコンペティションで最優秀賞

昨年11月11～12日に沖縄県宜野湾市の宜野湾マリン支援センターで開催された第3回沖縄海洋ロボットコンペティション2017で、大学の学生チャレンジプロジェクト「水中ロボットプロジェクト」（指導教員・内田敬久機械学科教授）から参加したチーム「Blue-A」のウミガメ型ロボット「AIT-STR III」が最優秀賞を獲得しました。

コンペでは部門ごとにワークショップ（ポスタープレゼンテーション）と競技・演技（デモンストレーション）が行われ、それぞれ課題ごとに設定された得点の合計点で順位が決まります。「AIT-STR III」は、新規技術を競うフリースタイル部門に参加し、プレゼンテーションと海洋デモンストレーションの両方で1位を獲得しました。

このほか、同じフリースタイル部門に挑戦したチーム「Blue-B」のイルカ型ロボット「AIT-DRV」もプレゼンテーション・海洋デモンストレーションの両方で3位となり、敢闘賞を受賞しました。これら2体のロボットは知的計測制御研究室（古橋秀夫電気学科教授）で取り組むバイオミメティクス技術（生体模倣技術）の研究を応用したロボットで、その高い運動性能と制御理論が評価されました。



メディア情報研究会がサイエンス・インカレ DERUKUI 賞

3月3～4日に立教大学池袋キャンパスで開催された第7回サイエンス・インカレで、大学のメディア情報研究会（鳥居一平情報科学科教授）に所属する水越琴子さん（情報科学科1年）、榊原琢久さん（同）、近藤一樹さん（同2年）のチームが「光による睡眠サイクルの構築～いつでも思い通りの睡眠を～」によりサイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞〈DERUKUI 賞〉を受賞しました。

自然科学分野を学ぶ全国の大学生や高専生らが自主研究の成果を発表するサイエンス・インカレ（文部科学省主催）で、今年はメディア情報研究会の18人（6組）の学生が書類審査を通過しポスター発表部門に臨みました。メディア情報研究会では、プロジェクトマップから情報技術に関わる幅広い研究・開発までを1年時から学ぶことを目的に、80人の学生が活動しています。

今回、遠征の代表を務めた河竹俊輔さん（情報科学科3年）は「続けてきた研究成果を全国から集まった人たちに発表でき、高く評価されてとても満足しています」とうれしそうに話しました。参加した学生たちは「他の発表を聞いて刺激を受けました。来年は必ずグランプリを狙います」「審査員の先生方から様々な意見や着眼点をいただくことができたので、これからの研究に生かします」と目を輝かせ、さらなる飛躍に向けて決意を新たにしていました。

大学3クラブ、高校10クラブ、中学2クラブをクラブ表彰（昨年12月～今年3月）



3月20日のクラブ表彰

出場大会と表彰されたクラブは次の通りです。

【昨年12月8日表彰】

■第30回全日本マーチングコンテスト

高校吹奏楽部（昨年11月19日・大阪城ホール）

■第24回全国高校対抗ボウリング選手権

高校ボウリング部（昨年12月22～24日・川崎グランドボウル）

■第26回全国高校文化連盟将棋新人大会

高校将棋部（1月25～27日・グランドホテル浜松）

■第70回全日本バレーボール高校選手権

高校バレーボール部（1月4～8日・東京体育館）

【昨年12月11日表彰】

■第49回全日本大学駅伝

大学陸上競技部（昨年11月5日・熱田神宮～伊勢神宮）

■第67回全日本学生フェンシング選手権

大学フェンシング部（昨年11月14～18日・駒沢オリンピック公園）



昨年12月8日のクラブ表彰



昨年12月11日のクラブ表彰

【2月5日表彰】

■2017年度全日本学生ヨット個人選手権

大学ヨット部（昨年8月11～14日・蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバー）

【3月20日表彰】

■平成29年度全国高校選抜卓球大会

高校卓球部（3月25～28日・福井県営体育館）

■第42回全国高校選抜フェンシング大会

高校フェンシング部（3月24～26日・いしかわ総合スポーツセンター）

■平成29年度全国高校相撲選抜大会

高校相撲部（3月16～19日・高知県立春野運動公園相撲場）

■第33回全国高校ウェイトリフティング競技選抜大会

高校ウェイトリフティング部（3月24～27日・金沢市総合体育館）

■ロボカップジュニア・ジャパンオープン2018 和歌山

高校メカニカルアーツ部（3月31日～4月1日・和歌山ビッグホエール）

■平成29年度全国高校総合体育大会・第67回全国高校スキー大会

高校競技スキー部（2月4～8日・飛騨ほおのき平スキー場、デイリー郡上カントリー倶楽部）

■第30回全国高校選抜スキー大会

高校競技スキー部（2月16～19日・野澤温泉南原クロスカントリーコース）

■第19回全国中学選抜卓球大会

中学卓球部（3月24～25日・島津アリーナ京都）

■ロボカップジュニア・ジャパンオープン2018 和歌山

中学メカニカルアーツ部（3月31日～4月1日・和歌山ビッグホエール）



2月5日のクラブ表彰

大学生の課外活動を表彰

課外活動で優秀な成績を収めた大学の団体・個人に対する平成 29 年度課外活動表彰式が 3 月 12 日、八草キャンパス本部棟 2 階会議室で行われ、曾我部博之副学長から表彰状・記念品が贈られました＝写真。曾我部副学長は「これからも日々精進され、さらに活躍されることを期待しています」と学生たちを激励しました。

クラブ活動における表彰は次の皆さんです。

●団体

▽フェンシング部

上野克巳、山崎凌、浦田尚吾、佐々木拓海、原田神魁

第 67 回全日本学生フェンシング王座決定戦男子フルーレ団体第 3 位

▽競技スキー部

熊谷和真、山本翔也、瀧川幸広、溝口雄平、吉永燎人

第 63 回中部日本学生スキー選手権大会男子総合優勝

▽陸上競技部

唐澤研太、生川智章、松井駿佑、岡本優樹、植松達也、児玉勘太、小林宏輔、鈴木高虎

秩父宮賜杯 第 49 回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会優勝

▽ヨット部

石黒武志、末永征覇、兵藤麗奈、柴本陸、仲村駿希、矢ヶ崎新、可児充、加藤倭大

2017 年度秋季中部学生ヨット選手権大会 470 クラス優勝

▽弓道部

中村匠、津田裕哉、濱田淑希、小林達矢、奥村卓史、辻本佳己

第 60 回東海学生弓道選手権大会男子団体優勝

▽ロケット研究会

三木一慶、永田真也

第 13 回種子島ロケットコンテスト種目 3 ロケット部門（高度）優勝

●個人

▽フェンシング部 島田翔大 平成 29 年関西学生フェンシング選手権大会男子サーブル個人優勝

▽競技スキー部 伊原遥香 2018 フリースタイルスキー秋田・田沢湖モーグル競技会女子デュアルモーグル種目優勝、

溝口雄平 第 63 回中部日本学生スキー選手権大会男子大回転優勝・男子回転優勝

▽ゴルフ部 佐野琢朗 中部学生ゴルフ春季 1 部・2 部大学対抗戦個人の部優勝

▽ヨット部 石黒武志、兵藤麗奈 2017 年度中部学生ヨット個人選手権大会 470 クラス優勝、

鈴木空、柴本陸 2017 年度中部学生ヨット個人選手権大会 470 クラス準優勝

▽弓道部 桐生有希 第 61 回東海学生弓道秋季リーグ戦女子個人優勝



高校情報デザイン部に愛知県警生活安全部長の感謝状

活動の一環として防犯啓発用の映像制作などに取り組んでいる高校情報デザイン部に対し、2 月 15 日、愛知県警生活安全部長から感謝状が贈呈されました＝写真。

情報デザイン部は県警に協力し、子どものための防犯イベントで使われる 3D 映像や、youtube の県警公式チャンネルで見ることができる防犯少年団の活動事例紹介動画などを制作しています。さらに女性向け防犯ブザーの開発プロジェクトにも参加して若い感性を反映させています。

贈呈式は県警本部で行われ、情報デザイン部長の山田光さん（情報科学科 3 年）が鈴木信視・県警生活安全部長から感謝状を受け取りました。

山田さんは「普段、私たちの作品をたくさんの人に直接見てもらうことがあまりないので、とても良い経験になりました。高校生が社会に向けて何かを発信するということはなかなかできないと思うのですが、愛知県警を通して社会貢献ができ、とてもうれしく思います。毎回とても楽しく活動させていただいているので、またお話があればぜひ取り組んでいきたいと思っています」と喜びを話していました。

日中の卓球元世界チャンピオンたちが友好のラリー

若水キャンパスで4月3日、愛知工業大学卒業生の杉本（旧姓今野）安子さんら日本と中国の卓球元世界チャンピオンと、学園設置校の卓球部員らが参加した「日中友好条約締結40周年記念・卓球交流会」（宋慶麗基金会・愛知県日中友好協会・学校法人名古屋電気学園主催）が繰り広げられました。

中国で最も歴史がある公益機関の一つ・宋慶麗基金会の友好代表団が4月3～4日の日程でピンポン外交発祥地の名古屋市を訪問したことに合わせ、計画された友好の卓球交流会。基金会の王家瑞主席（前中国人民政治協商会議副主席）が率いる18人の代表団には、1971年のピンポン外交時の第31回世界卓球選手権（愛知県体育館で開催）男子団体が優勝した郝恩庭さん、梁戈亮さんのほか、女子で世界選手権優勝者・五輪金メダリストの喬紅さん、2013年ワールドカップ団体1位の常晨晨さんが含まれます。



友好のラリーを終えて握手を交わす（左から）竹内敏子さん、梁戈亮さん、杉本安子さん、郝恩庭さん

若水キャンパス淳和記念館に到着した一行を、後藤泰之理事長や第31回世界卓球選手権女子団体が優勝した杉本安子さん、竹内（旧姓小和田）敏子さんらが出迎え。日中国交正常化につながったピンポン外交は第31回世界卓球選手権に中国代表団が参加したことがきっかけになり、当時の学園理事長・後藤鉦二先生の努力の結果もたらされました。一行は淳和記念館メモリアルギャラリーに展示されたピンポン外交の関連資料などを見学後、卓球交流会場の喬徳館（高校体育館）に移動しました。



交流試合でペアを組んだ木造勇人選手と喬紅さん

喬徳館では高校吹奏楽部の演奏に続き、後藤理事長が「小さなピンポン玉が大きな地球を動かす」といわれたピンポン外交の成果に触れ「本日の交流会を通じてさらに友好が深まることを期待しています」と歓迎の挨拶。これを受け、中国の鄧偉・駐名古屋総領事が「記念すべき年の卓球交流会は特別な意味を持ちます」と期待を込めて述べました。



卓球交流では、初めに中国の元チャンピオン4人と吉村和弘選手、木造勇人選手ら愛知工業大学卓球部男女選手がペアになり、ダブルス戦を2試合。次に基金会の王主席も試合に参加して軽快な動きを披露しました。

盛り上がりを見せたのは、郝恩庭・竹内敏子組＝写真④と梁戈亮・杉本安子組＝写真⑤のピンポン外交時の優勝者4人によるダブルス対戦で、年齢を感じさせない「友好のラリー」に周りから大きな拍手が送られました。

この後も名電の中高卓球部員と代表団との交流試合などがあり、郝恩庭さんらが中学生部員に熱血指導する姿も見られました。